

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### 冬鳥がやってきた

松川 裕(四街道市)

日 時：2014年12月7日（日）10時30分～12時 天候：晴れ

参加者：大人7名 子ども1名 計8名

担当指導員：木下順次 松川 裕

12月7日は暦の上で二十四節気の「大雪」の日、里にも雪が激しく吹き始め、熊が冬ごもりに入り、カエルやコウモリも冬眠に入る時期だそうです。こうした時期に元気なのは遠くシベリア、中国から寒さを避け、食料を求めて飛んでくる冬鳥達です。

8時半に木下さんと大草の駐車場で待ち合わせをしましたが、快晴だったため森のなかは冷凍庫状態、にもかかわらずスギ林ではヒヨドリやメジロ、エナガ、シジュウカラ等の混群で賑やかでした。また、谷津田ではモズやセグロセキレイ、キセキレイなども現れ本番への期待がふくらみました。

参加者は大人7名、子ども1名（3歳）の8名でした。子どもさんが知っている鳥の名前は唯一「カラス」だそうですが、木下さんの望遠鏡を子ども用に低くセットをして観察しましたが、とても感の良い子で、望遠鏡で何羽かの鳥を観察でき喜んでいました。本番ではどうゆうわけか鳥の出現、特に冬鳥は非常に少なかったですが、樹幹に飛び交うメジロ、ヒヨドリ、谷津田ではモズやセグロセキレイが比較的長い時間いたため、望遠鏡で観察できました。セグロセキレイを我々は良く見かけますが、実は日本のみで暮らし、かつ繁殖をする数少ない純粋の日本固有種であり、外国人のバードウォッチャーの憧れの鳥であること、モズは小鳥ながら鋭い嘴をもち自分より大きな鳥も襲うこと、また物まねが得意で百舌鳥と書くこと、捕られた獲物を木の枝等に突き刺したり、木の枝股に挟む行為を行うは「モズのはやにえ（早贅）」として有名です。また、以前は、キセキレイは川の上流、セグロセキレイは中流、下流にハクセキレイと棲み分けていると言われていましたが最近は住宅地近くの谷津でも3種が良く観察できることなどを説明しました。

気温が上がると共に、アキアカネ、コバネイナゴ、ジョロウグモやモグラ塚、ノウサギの糞も観察できたので昆虫やクモの冬越しやモグラの話などをしました。アズマモグラは東日本、コウベモグラは西日本と棲み分けをしていましたが、最近はコウベモグラが優勢という話やとても清潔好きでトンネルの中にはトイレもあること、冬は寒いのでトンネルを深い所（20～30cm）に掘り直すのでモグラ塚を多く見ることができること、トンネルの長さは300mくらいあるとの話をしました。また、ノウサギの糞探しをした結果、沢山の跡を発見し、大変興味を持って聞いてくれました。冬鳥の出現は少なかったものの、多様な自然の話ができ、非常に有意義な観察会でした。